

家畜衛生広報



ながの

長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
〒380-0944 長野市安茂里米村1993
Tel 026-226-0923 Facs.026-227-2665
E-mail: nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

平均乳量は1975年対比160%!! しかし問題は・・・

【平成24年度の乳用牛群検定成績まとまる】

世界初の乳牛の泌乳能力検定は、今から120年前デンマークで始まりました。1900年代に入り、たちまち先進酪農国に広まり、今ではそれぞれの酪農を支える重要な基盤事業となっています。

TPP等の動向が心配される中、現在の酪農の最大の課題は、国際競争に耐える高品質で安全な生乳生産と生産コストの低減化を図ることです。

今回、平成24年度の乳用牛群能力検定成績が公表されました。「泌乳能力、乳成分のめざましい向上の反面、繁殖成績が大きな課題となっている。」という内容です。今回の広報では、この概要を紹介いたします。

1 泌乳能力

乳用牛群検定農家の2012年のホルスタイン種1頭当たりの乳量は、全国平均で**9,286kg**でした。これは、我が国で検定が開始された1975年当時と比較すると、**159.4%**の伸び率となり(図1)、なんと、**37年間で3,460kg、1年に93.5kg増加**したことになります。

2 乳成分

乳成分の全国平均は、乳脂率**3.92%**、蛋白質率**3.25%**、無脂固形分率**8.74%**でした。体細胞数は、月の変動がありますが年平均にすると**25.1万/ml**、30万/ml以上の農家割合は**26.5%**となっています。過去の検定成績と比較すると**乳脂率は108.9%**(1975年比)、蛋白質率**107.6%**(1987年比)、無脂固形分率**101.6%**(1985年比)と大幅に向上しています。

図1 昭和50年を100とした305日検定乳量の伸び率

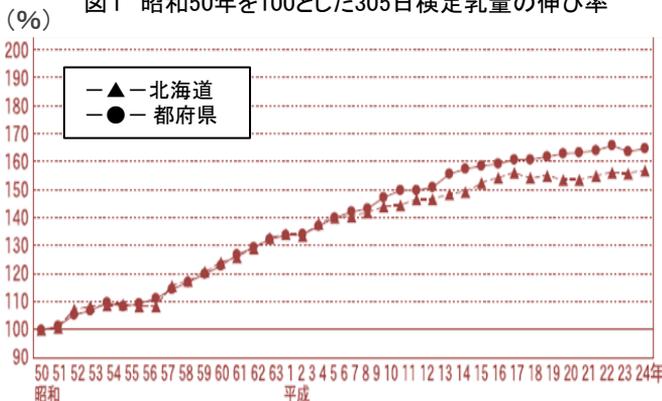
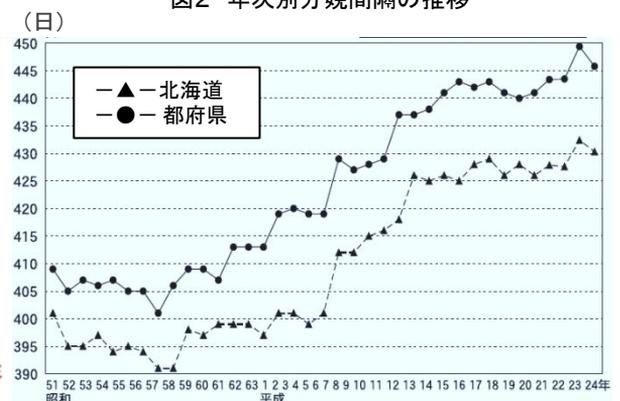


図2 年次別分娩間隔の推移





3 繁殖成績

全国平均分娩間隔の推移をみると1976年には403日であったものが2012年には**435日と32日も延びています**。(図2) これは、**発情周期1.5回分に相当し**、酪農経営に大きな影響を及ぼす重要な課題と言えます。

なお、平均初回授精日数は94日、受胎に要した授精回数は2.4回で、**平均空胎日数は164日**でした。また、平均初産月齢は25.2ヶ月となっています。

4 空胎による経済損失

現実的な乳牛の繁殖目標は、初回授精受胎率50%以上、1受胎当たりの授精回数2.2回以内、**分娩間隔395日**とされています。空胎日数が115日を超えると経済損失が大きい牛群とされ、搾乳牛50頭の農場で、**空胎日数を164日と仮定すると**、損失額は**年間約300万円以上**になると推定されます。

また、分娩間隔が長い乳牛ほど、乳熱や第四胃変位、ケトージスなどの周産期病のリスクが高まることは、周知のとおりです。

5 繁殖性を向上させるための対策

繁殖性を向上させるための技術は多岐に亘りますが、各種の方法を組み合わせることで総合的に取り組み、空胎日数を短縮しましょう。

- (1) 農場における繁殖状況の**正確な把握と記帳**。
- (2) 発情の確実な発見（**牛の観察**に時間をかける）。
- (3) 乳用牛群検定による牛群の**健康状態**の把握と**飼養改善**。
- (4) 早期妊娠診断、**分娩後のフレッシュチェック**の励行、早期治療。
- (5) 積極的な**発情誘起プログラム**や**受精卵移植**の活用。 etc



平成26年3月4日(火)11時からホテル信濃路において、乳牛の繁殖性を向上させるための新技術等に関する研修会を開催します。

当日のプログラム等、詳細は後日御連絡申し上げますので、今から予定表等に記入しておいていただき、多数参加して下さい。

**踏み込み消毒槽は伝染病予防の第一歩
まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう**



しあわせ信州

掘り起こそう、足元の価値。
伝えよう、信州から世界へ。